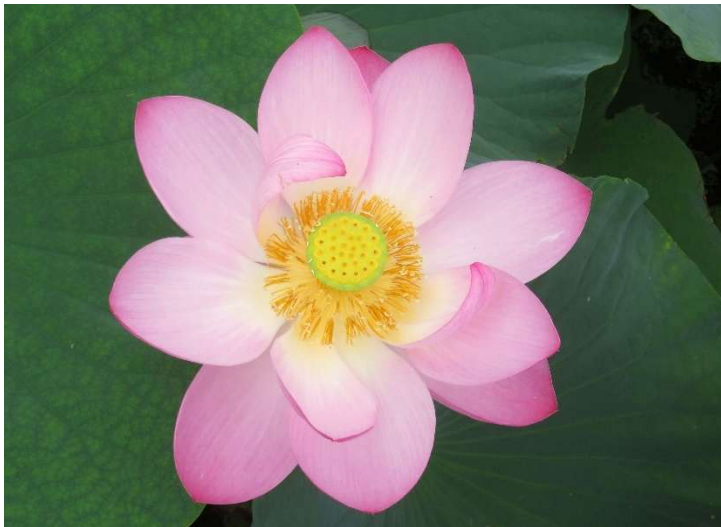


僕の住んでいる松戸市は、気象情報では「関東地方南部」「千葉県北西部」に位置します。関東地方にはこのところ頻繁に「レベル 4」の災害警報がでました。松戸市は極端な悪天候、たとえば線状降水帯・突風などの大きな被害を受けていませんが、様々な対策・対応が必要です。

世界の気候変動で大きな被害がでています。世界の指導者達は共通の危機意識をもって、直接・間接的な原因への環境対策を優先的に取り組んで欲しいですね。殺りくするための武器を開発、製造、販売、使用は NO!!!。

◎ ハス(蓮) 葛飾区水元公園



ハスの開花は大体朝のうちだけ。その周辺では虫達も盛んに活動をしています。黒色のチョウトンボは、その名前のようにハスの周りをチョウチョウのようにヒラヒラと飛んでいます。





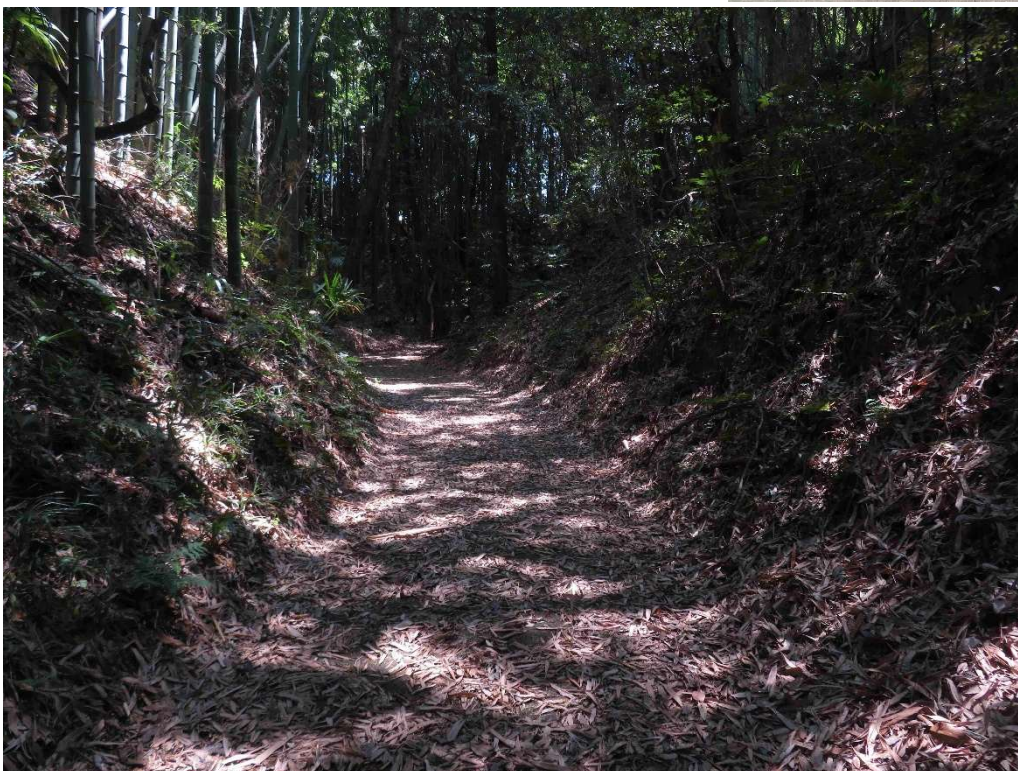
オニバス：公園のハス池に隣接してオニバスが保護栽培されています。昨年はなかなか開花しなかったのですが、今年は7月初旬から自分の葉っぱを突き破って花が咲き始めています。



◎ ヤマユリ（千葉県 房総のむら）

龍角寺古墳群がある「房総のむら」。これまでは JR 成田線の下総松崎(しもうさまんざき)駅から歩いたのですが、今回は印旛郡栄町(さかえまち)ホームページで見つけたルートで、手前駅の安食(あじき)駅から行きました。

駅から約 30 分、幹線道路、公共施設、大型店舗などを過ぎると水田地帯が開けます。その間を行きます。



田んぼを過ぎるとこんもりした里道に入ります。

まず、竹林が続きます。栄町の説明では「整備された遊歩道」とあります。

のんびりと歩いていたキジを驚かしてしまいました。

ところが途中で2箇所、道が途切れました。

普段は歩く人が少ないのか、草が高く生えていて道が判りません。方位計を頼りにして歩を進めました。





千葉県での「熊出没」のニュースを
未だ聞いた事がありません。しかし、里
山で道なき道に入り込むと多少とも不
気味な感じがしました。



それが、期待していたヤマユリの姿と香りに遭遇
してそれまでの不安と疲れは吹き飛びました。





房総のむら周辺のヤマユリは8月初旬ごろまで楽しめます。ほかにもホタルブクロ、ノカンゾウ、ヤマボウシ、ムラサキシキブ、ウツボグサ、ミズヒキなど、それから少し季節を早とちりしたコスモスも咲いています。

◎ 大鷲神社の「魂生大明神」

安食駅から里山に向う前に少し寄り道をして大鷲神社を参拝しました。



『魂生大明神』
五穀豊穡、縁結び、子授け、安産、夫婦和合の神で、魂生神。
延喜年間(西暦九百年)庶民の素朴な性神信仰がおこり男神、女陰神に心をこめて祈願しました。
十二月の「酉の市」では、木製の御神体で町内を練り歩きます。

(神社の説明掲示板より抜粋)

◎ 安食の地名

JR 成田線の駅名には前出の「安食(あじき)」「下総松崎(しもうさまんざき)」、そして、「新木(あらき)」「木下(きおろし)」などの名前があります。安食は栄町(さかえまち)の大字ですが、小字にも独特の地名があります。例えば下記。

皂前(さいかちまえ)
田中(たちゅう)
大蒲(おおかま)
道面(どうめん)
木塚(きづか)

五斗蒔(ごとまき)
辺引前(へびきまえ)
輪胴(りんどう)
下埜(したや)
十王(じゅうおう)

糠谷(ぐみざく)
五貫州(ごかんす)
六反田(ろくたんだ)
葭河原(よしかわら)
長辺田(ながへだ)

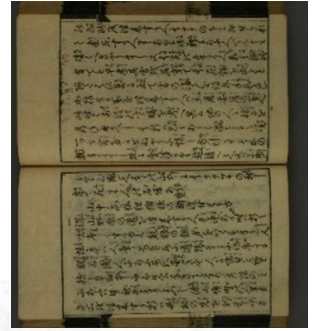
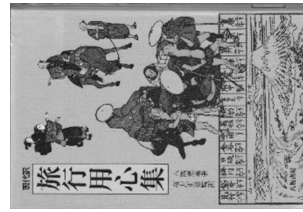
◎ 江戸時代の旅行と用心集「ガイドブック」から

比較的平和な時代が続いたという江戸時代には旅行が盛んでした。農民も講を作ってお金を貯めて、順番でお伊勢参りなどに行きました。寺子屋などで読み書きを習えるなどして、識字率が高かったこともあり、旅行集、旅物語りなどの出版も盛んでした。有名な「弥次喜多道中」もそのひとつです。

『旅行用心集』は八隅蘆庵(やすみろあん)が旅の心得を著わして、文化庚午(かのえうま)7年(1810年)に出版されました。



この中に「山中でけものの類を近づけない方法」が書いてあります。県立図書館に現代訳本がありましたので抜粋して紹介します。（桜井正信監訳 八坂出版）



山中でけものの類を近づけない方法



- 1 深い山や野原の道を往来する人は、道連れがあるときは話し声がするので、熊や狼などは身をかくすものだ。

一人旅では人の声がしないため、道ばたなどで寝ていたけものも、思いがけず人に

出会ったために驚いてかみつくことがある。

白昼にはこんなことがない。このようなことにあうのは、すべて夜道である。

だから山の中や、人里遠い野原を歩くときは、先を割った竹杖で道をたたきながら、音を立てて歩きなさい。また石突のついた杖をついてもよい。そうすれば、けものは逃げ去っていく。

また、夜道では^{*}火縄や^{*}松明^{たいまつ}などを持って歩けば、けものに会うことはない。

それから牛の糞を草鞋の裏へぬって山道を歩けば、けものや蛇、まむし、毒虫などは、恐れて近づかないそうだ。

- 1 ^{*}五岳と^{*}白澤^{はくさく}の絵符をふところに入れていれば、旅での災難をまぬがれ、鬼や猛獣も近づくことができない。

- 1 狐や狸のしわざで、ふと道に迷うとか、あるいは急に暗くなったり、あるいは川がないところに川ができたり、門がないところで門が閉ざされたりするなど、いろいろ奇怪なことが起こったら、まず心を落ちつけ、煙草を吸うか休むかして、これまで来た道を思い出してみるのがよい。

57

それでもわからないならば、もとの道をもどって人家に立ち寄り、ようすを聞いてみなさい。こうすれば狐や狸にだまされることはない。

58

すべて心を落ちつけるということは、旅行の間だけでなく、万事について重要なことである。

山中でけものの類を近づけない方法

- 57頁6行目 火縄 竹や檜の皮の繊維、あるいは木綿糸を縄になって硝石を含ませ、火をつけやすくしたもの。火縄銃やたばこの火をつけたりするのにも使う。
- 6行目 松明 松の脂の多いところや、竹・葦などをまとめて火をつけ、照明用に用いたもの。
- 9行目 五岳 中国の信仰上の霊山。泰山（東嶽）、衡山（南嶽）、華山（西嶽）、恒山（北嶽）、嵩山（中央）の五つをいう。
- 9行目 白澤 中国で、想像上の神獣の名。人語を話し、徳のある王の治世に現われると信じられている。